

公表

事業所における自己評価結果

| | | | |
|----------|---|-----|--------------|
| 事業所名 | ケンリハスポーツユース 徳重 | 公表日 | 2026年 1月 10日 |
| | チェック項目 | はい | いいえ |
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。 | 5 | 0 |
| | 2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。 | 5 | 0 |
| | 3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。 | 4 | 1 |
| 業務改善 | 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。 | 5 | 0 |
| | 5 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 5 | 0 |
| | 6 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。 | 4 | 1 |
| | 7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。 | 4 | 1 |
| | 8 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。 | 5 | 0 |
| 適切な支援の提供 | 9 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。 | 5 | 0 |
| | 10 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。 | 5 | 0 |
| | 11 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。 | 5 | 0 |
| | 12 活動プログラムの立案をチームで行っているか。 | 5 | 0 |
| | 13 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。 | 5 | 0 |
| | 14 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか。 | 4 | 1 |
| | 15 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。 | 5 | 0 |
| | 16 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。 | 4 | 1 |
| | 17 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。 | 5 | 0 |
| | 18 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。 | 5 | 0 |

| | | | | | | |
|--------------|----|--|---|---|--|--|
| | 19 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。 | 5 | 0 | | |
| | 20 | こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。 | 5 | 0 | | |
| 関係機関や保護者との連携 | 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。 | 5 | 0 | | |
| | 22 | 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。 | 5 | 0 | | 送迎時にトラブルが発生した際は、学校・トワイライト・保護者へ速やかに連絡を行っている。対応自体は適切に行えているが、時折お迎え時間に相違が生じることがある点が課 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。 | 4 | 1 | 就学に向けて、保護者からの意向や児童発達支援計画の内容を踏まえ、必要に応じて関係機関と情報共有を行い、スムーズな移行につながるよう支援を行っています。 | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。 | 2 | 3 | | |
| | 25 | 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。 | 3 | 2 | | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。 | 2 | 3 | | 実際に他のこどもと交流・活動する機会については十分に確保できていない現状があります。今後は地域資源や関係機関との連携を深め、交流の機会を具体的に検討していく。 |
| | 27 | （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。 | 3 | 2 | | |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。 | 5 | 0 | 送迎時に保護者へ連絡・対応を行つ際には、学校や家庭での様子を伺うこともあります。また、家族支援や子どもへのサポートについても、可能な限り行うよう努めています | |
| | 29 | 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレンツ・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。 | 4 | 1 | | |
| | 30 | 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。 | 5 | 0 | | |
| 保護者への説明等 | 31 | 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。 | 5 | 0 | | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。 | 3 | 2 | エンジョイサロンという名目で保護者同士が集まり、就学に向けた悩みや情報を共有し話し合う機会を設けている | |
| | 33 | こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。 | 5 | 0 | | |
| | 34 | 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。 | 5 | 0 | | |
| | 35 | 個人情報の取扱いに十分留意しているか。 | 5 | 0 | | 時折、机上に計画書等が置かれている場面が見られるため、管理方法の徹底について改善が必要 |
| | 36 | 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。 | 5 | 1 | | |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。 | 1 | 4 | | 地域住民の方を事業所の行事に招待するなど、具体的な交流の機会については十分に実施できていない現状があります。今後は、地域との関わりを広げる取り組みを検討し、より開かれた事業所運 |
| | 38 | 事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。 | 4 | 1 | | |

| | | | | | | |
|---------|----|--|---|---|--|--|
| 非常時等の対応 | 39 | 業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。 | 5 | 0 | | |
| | 40 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。 | 5 | 0 | | |
| | 41 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。 | 4 | 1 | | |
| | 42 | ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。 | 5 | 0 | | |
| | 43 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。 | 5 | 0 | | |
| | 44 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。 | 5 | 0 | | |